

米に関するマンスリーレポート (令和6年10月号)



うちの郷土料理
次世代に伝えたい大切な味

鹿児島県 からいもごはん

出典:農林水産省「うちの郷土料理」
詳細情報を裏面で紹介

「米に関するマンスリーレポート（マンレポ）」とは

⇒ 米に関する価格や需給の動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表しています。需要に応じた生産・円滑な米取引に役立てていただくことを目的としています。

【利用上の注意】

1. 原則として毎月中旬公表。公表日の2営業日前までに入手可能なデータを反映しています。
2. 内容については、必要に応じて項目の追加・削除などの変更を行うことがあり得ます。

データはどう読み解けばいいの？

そんなときは、「ここが分からない！マンレポ」をチェック！

https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html

うちの郷土料理

次世代に伝えたい大切な味

鹿児島県 からいもごはん

主な伝承地域

鹿児島県 県内全域

主な使用食材

さつまいも、米

歴史・由来・関連行事

「からいもごはん」は、鹿児島県の特産品として全国に知られるさつまいもを使った郷土料理。鹿児島県は、温暖な気候に恵まれているが、霧島山を除く大部分がシラス台地で非常に水捌けが良く、また台風が頻繁に襲来するところから、せっかく育てた農作物に被害が及びやすいといった地理的条件があった。そこで、土壌がやせていても育ちやすく、かつ地中で成長するため台風の被害も受けにくい、さつまいもの栽培が強く根づいていった。いまでは、さつまいもの生産量は日本一を誇る。

さつまいもの伝来については諸説あるが、1698年に種子島島主の種子島久基が琉球に使いを出してさつまいもを持ち帰り、その後、1705年に山川の船乗りであった前田利右衛門がさつまいもを自分の畑で栽培して近隣の人々に配ったところ評判を呼び、鹿児島全域に広まったといわれる。収穫量が多く、貧しい者の食糧に最適であったことから“孝行芋”とも呼ばれた時代があった。同じ特産品である黒豚は餌の中にさつまいもを混ぜて育てられることで知られ、またさつまいもを原料にした芋焼酎も鹿児島県を代表する特産品であり、さつまいもは鹿児島県の食文化を支える重要な食材であるといえる。

そのため、鹿児島県においては、さつまいもを使った郷土料理が多数存在する。その一つが「からいもごはん」である。“からいも”はさつまいものことで、手軽につくれることから、現在もよく食卓に上がる。さつまいもの甘みとほっくりとした食感がごはんとは好相性で、老若男女から親しまれている。

食習の機会や時季

収穫時期である9月から11月ごろにさつまいもが多く流通するため、この時期につくられることが多い。

飲食方法

角切りにしたさつまいもと米と一緒に炊いて食べる。炊く際に塩を少し入れると、食べた時にさつまいもの甘みがより引き立つ。もち米を少し入れると、おこわ風に仕上がりと、また違った食感を楽しめる。仕上げに黒ごまを振っても良い。

材料（4人分）

- | | |
|---------|----------|
| ・ 米 | 2カップ |
| ・ 水 | 2・2/5カップ |
| ・ さつまいも | 100g |
| ・ 塩 | 小さじ2/3 |

作り方

- 1 米は30分前に洗って、水気を切る。
- 2 さつまいもはところどころ、皮を剥き、角切りにし、水に浸してアクを抜く。
- 3 1に2、塩、水を加えて炊く。

※レシピは地域・家庭によって違いがあります。

レシピ提供元名：「郷土の味」(鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会)

目次（令和6年10月号）

特集

- 1 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量 **特集-1**
農林水産省（統計情報）HP https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3
- 2 令和6年産の水田における作付状況 **特集-7**
農林水産省（農産）HP <https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/sakudou.html>
- 3 酒造好適米の全体需給の推計 **特集-9**
農林水産省（農産）HP https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

1 米の民間在庫情報

各産地の米の民間在庫数量は、年間玄米仕入量500トン以上の出荷段階（全農、JA等の出荷業者）の在庫量と年間玄米仕入数量4,000トン以上の販売段階（米卸等の販売業者の在庫量）を対象に調査し、その合計（出荷段階＋販売段階）の数値も合わせて公表しています。

集荷数量が概ね確定する1月以降の在庫数量は、販売に伴って減少していくので、その変化を見ることにより、販売状況を読み取ることができます。

- 1 民間在庫の推移
農林水産省（農産）HP <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）	在庫-1	Excel
(2) 産地別民間在庫の状況（速報）	在庫-5	Excel
(3) 令和5・6年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）	在庫-6	Excel

2 米の価格情報

相対（あいたい）取引価格

米については、全農等の出荷業者と卸売業者等との間で、年間を通じて「相対取引」が行われています。このため、農林水産省では、年間の玄米仕入量5,000トン以上の全国出荷団体等を対象に、指標となる各産地の上位2～3銘柄（令和5年産米：118産地品種銘柄）について、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格・数量を毎月調査し、米の取引価格の代表となる指標の一つとして公表しています。

- 1 相対取引価格・数量
農林水産省（農産）HP <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html>

(1) 年産別の相対取引価格（速報）	価格-1	
(2) 相対取引価格・数量（令和5年産米、産地品種銘柄別、令和6年8月分）（速報）	価格-2	Excel
(3) 相対取引価格（月別・年産平均価格）（令和4・5年産米、産地品種銘柄別）（速報）	価格-4	Excel
- 2 米取引関係者の判断（米穀機構による調査、令和6年9月分）
米穀安定供給確保支援機構HP <https://www.komenet.jp/>

	価格-6	
--	------	--

3 米の契約・販売情報

産地別事前契約数量は、米の播種が始まる前に、契約書や確認書等によりあらかじめ取引されることが決定している数量で、年間玄米仕入量500トン以上の出荷段階（全農、JA等の出荷業者）からの報告を産地別に取りまとめたものです。例えば、仕入（集荷）計画数量に占める事前契約数量の比率が高い産地では、取引数量の多くを播種前に契約し、需要に応じた生産に向けた取組が進められていることがうかがえます。

- 1 事前契約（播種前契約）の取組状況

(1) 近年の事前契約（播種前契約）数量の推移	契約-1	
(2) 令和5・6年産米の産地別事前契約（播種前契約）の取組状況（速報）	契約-2	Excel
- 2 令和5年産米の産地別契約・販売状況
（累計、うるち米、令和6年8月末現在）（速報）

	契約-3	Excel
--	------	-------
- 3 令和6年産備蓄米の政府買入入札結果
農林水産省（農産）HP <https://www.maff.go.jp/j/seisan/syoryu/kaiire/index.html>

	契約-6	
--	------	--

4 消費の動向

1 米の消費動向(米穀機構による調査)

米穀安定供給確保支援機構HP <https://www.komenet.jp/>

消費-1

2 購入数量・支出金額の推移(家計調査)

総務省統計局HP <https://www.stat.go.jp/data/index.html>

消費-4

3 消費者物価指数の推移

消費-6

4 小売物価統計の推移

消費-7

5 米穀販売事業者における販売数量及び販売価格の動向(速報)

消費-8

6 小売価格の推移(POSデータ)

消費-9

5 輸出入の動向

1 コメ・コメ加工品の輸出実績

(1) コメ・コメ加工品の輸出実績の推移

輸出入-1

(2) 商業用の米の輸出数量及び金額の推移

輸出入-2

(3) 2024年上半期のコメの輸出実績の主な増加要因

輸出入-3

(4) 米菓の輸出数量及び金額の推移

輸出入-4

(5) 日本酒(清酒)の輸出数量及び金額の推移

輸出入-5

(6) 包装米飯(パックご飯)等の輸出数量及び金額の推移

輸出入-6

(7) 米粉の輸出数量及び金額の推移

輸出入-7

(8) 米粉麺等の輸出数量及び金額の推移

輸出入-8

2 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

輸出入-9

3 MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)

輸出入-11

農林水産省(農産)HP

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/boueiki/nyusatu/index.html>

4 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合せ結果(令和5年度)

輸出入-12

5 SBS輸入米の見積合せ結果(令和5年度)

輸出入-13

6 CPTPP・国別枠の見積合せ結果(令和6年度)

輸出入-14

6 主食用米以外の情報

1 加工用米及び新規需要米等の生産状況

(1) 加工用米の生産量

主食外-1

(2) 新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移

主食外-1

(3) 令和5年産 都道府県別の生産状況

主食外-2

(4) 加工用米及び新規需要米における多収性品種

主食外-3

(5) 新規需要米における米粉用向け専用品種

主食外-3

2 米加工品の状況

(1) 主な米加工品の生産状況

主食外-4

(2) 令和3米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況(推計)

主食外-5

(3) 加工原材料用米穀の使用状況(推計)の推移

主食外-6

3 酒造好適米の需給状況

(1) 日本酒の出荷状況

主食外-7

(2) 日本酒原料米の使用状況

主食外-7

(3) 酒造好適米の生産量

主食外-8

(4) 酒造好適米の需要量

主食外-8

「米に関するマンスリーレポート」では、米に関する価格や需給の動向に係るデータ・情報をより多くの方に、かつ、より有効に活用していただけるよう、情報の整理方法、提供方法等を見直しました。
また、当省ホームページでの公表に際しては、本編・資料編に加え、カテゴリ別にも整理して掲載するとともに一部データ資料については、エクセルによる提供も開始しましたので、ぜひご活用ください。

作物統計調査

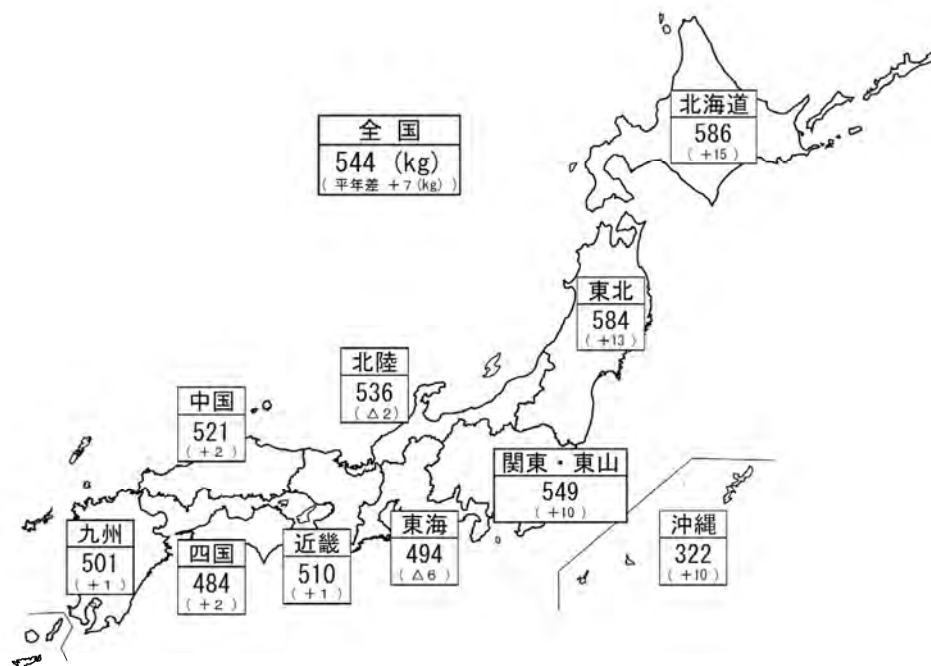
令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

— 全国の10a当たり予想収量は544kgの見込み —

【調査結果の概要】

- 1 令和6年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は151万4,000ha（前年産に比べ1万7,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は125万9,000ha（前年産に比べ1万7,000ha増加）と見込まれる。
- 2 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は544kgと見込まれる。
これは、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足等の影響があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれ、作柄は平年並み以上と見込まれるためである。
- 3 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は683万3,000t（前年産に比べ22万3,000t増加）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふりい目幅ベースの全国の作況指数は102と見込まれる。

図1 全国農業地域別 10a当たり予想収量(9月25日現在)
(1.70mmのふりい目幅ベース)



- 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積であり、主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふりい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

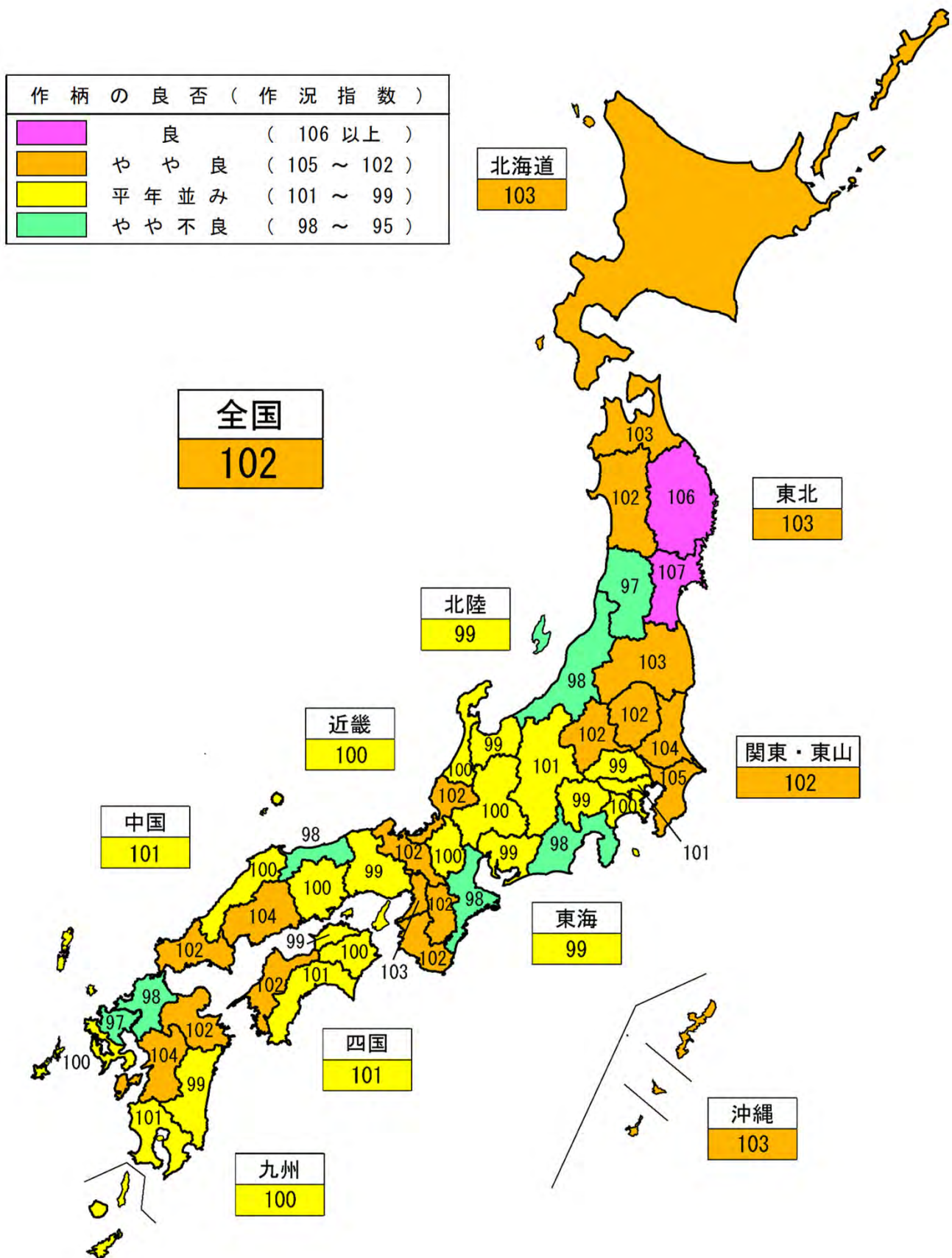
○ 本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y3 】

表 令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量(全国農業地域別)

全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10 a 当たり予想収量			主食用 作付面積	予想収穫量 （主食用）
	実 数	前年産との比較		実 数 ①	平年との比較	前年産との比較		
		対 差	対 比		対 差	対 差		
	ha	ha	%	kg	kg	kg	ha	t
全 国	1, 514, 000	△17, 000	99	544	7	11	1, 259, 000	6, 833, 000
北 海 道	102, 800	1, 100	101	586	15	7	83, 700	490, 500
東 北	400, 200	△3, 000	99	584	13	15	319, 800	1, 868, 000
北 陸	205, 300	△3, 000	99	536	△ 2	23	175, 800	940, 400
関 東・東 山	285, 300	△4, 200	99	549	10	5	235, 000	1, 290, 000
東 海	94, 500	△2, 400	98	494	△ 6	0	83, 400	412, 200
近 畿	98, 000	△1, 300	99	510	1	7	90, 600	461, 700
中 国	100, 100	△1, 600	98	521	2	7	90, 400	471, 000
四 国	46, 000	△ 900	98	484	2	2	42, 300	205, 200
九 州	181, 500	△1, 700	99	501	1	4	138, 200	692, 600
沖 縄	643	42	107	322	10	1	557	1, 790

注： 1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。
2 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 10 a 当たり予想収量の平年との比較は、10 a 当たり平年収量との比較である。
4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
5 予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
6 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量の加重平均を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数(9月25日現在)
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出は、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量の加重平均を用いた。

【統計表】

令和6年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

全 国 ・ 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10 a 当たり 予想収量 ①	農家等が使用している ふるい目幅で選別			
	実 数	前年産との比較			最も多い 使用割合 の 目 幅 ②	10 a 当たり 予想収量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作 況 指 数 ⑤＝③／④
		対 差	対 比					
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg	
全 国 (1)	1,514,000	△ 17,000	99	544	...	521	513	102
北 海 道 (2)	102,800	1,100	101	586	1.90	563	544	103
青 森 (3)	48,700	△ 600	99	623	1.90	598	578	103
岩 手 (4)	52,800	△ 500	99	570	1.90	547	517	106
宮 城 (5)	73,000	△ 500	99	584	1.90	551	516	107
秋 田 (6)	88,000	△ 500	99	583	1.90	554	542	102
山 形 (7)	66,800	△ 600	99	583	1.90	553	570	97
福 島 (8)	70,800	△ 500	99	571	1.85	552	534	103
茨 城 (9)	73,500	△ 800	99	544	1.85	525	506	104
栃 木 (10)	66,900	△ 1,700	98	543	1.85	523	515	102
群 馬 (11)	16,000	△ 200	99	509	1.80	492	482	102
埼 玉 (12)	31,800	△ 400	99	490	1.80	475	479	99
千 葉 (13)	58,600	△ 600	99	569	1.80	559	533	105
東 京 (14)	107	△ 4	96	419	1.80	409	404	101
神 奈 川 (15)	2,850	△ 20	99	493	1.80	475	475	100
新 潟 (16)	119,800	△ 600	100	537	1.85	515	524	98
富 山 (17)	37,400	△ 400	99	540	1.90	515	519	99
石 川 (18)	22,900	△ 1,700	93	524	1.90	498	498	100
福 井 (19)	25,200	△ 300	99	531	1.90	494	483	102
山 梨 (20)	4,720	△ 70	99	538	1.85	512	516	99
長 野 (21)	30,900	△ 400	99	620	1.85	602	599	101
岐 阜 (22)	24,200	△ 300	99	484	1.80	474	475	100
静 岡 (23)	15,600	△ 900	95	510	1.85	491	499	98
愛 知 (24)	27,600	△ 400	99	499	1.85	481	484	99
三 重 (25)	27,100	△ 900	97	486	1.85	469	478	98
滋 賀 (26)	30,300	△ 300	99	517	1.90	484	483	100
京 都 (27)	13,900	△ 200	99	522	1.85	504	492	102
大 阪 (28)	4,300	△ 150	97	511	1.80	494	478	103
兵 庫 (29)	35,700	△ 300	99	496	1.85	473	478	99
奈 良 (30)	8,070	△ 280	97	525	1.80	512	500	102
和 歌 山 (31)	5,690	△ 100	98	505	1.80	499	491	102
鳥 取 (32)	12,900	△ 200	98	499	1.85	486	495	98
島 根 (33)	17,500	△ 200	99	508	1.90	485	484	100
岡 山 (34)	29,700	△ 400	99	527	1.85	501	499	100
広 島 (35)	21,700	△ 500	98	539	1.85	528	508	104
山 口 (36)	18,300	△ 300	98	517	1.85	493	481	102
徳 島 (37)	10,800	△ 200	98	470	1.80	462	462	100
早期栽培 (38)	4,350	△ 50	99	454	1.80	447	453	99
普通栽培 (39)	6,410	△ 200	97	480	1.80	472	467	101
香 川 (40)	10,400	△ 300	97	492	1.80	475	479	99
愛 媛 (41)	13,300	△ 100	99	509	1.80	493	482	102
高 知 (42)	11,600	△ 200	98	460	1.80	449	445	101
早期栽培 (43)	6,740	△ 130	98	487	1.80	479	470	102
普通栽培 (44)	4,900	0	100	424	1.80	411	413	100
福 岡 (45)	37,100	△ 300	99	481	1.85	443	452	98
佐 賀 (46)	25,400	100	100	504	1.85	473	487	97
長 崎 (47)	11,100	△ 600	95	484	1.80	464	465	100
熊 本 (48)	40,500	△ 300	99	531	1.85	496	479	104
大 分 (49)	22,600	△ 400	98	511	1.85	465	454	102
宮 崎 (50)	22,800	0	100	490	1.80	475	482	99
早期栽培 (51)	7,580	△ 400	95	470	1.80	461	471	98
普通栽培 (52)	15,200	300	102	502	1.80	484	489	99
鹿 児 島 (53)	22,000	△ 200	99	492	1.80	476	470	101
早期栽培 (54)	6,320	△ 140	98	446	1.80	437	452	97
普通栽培 (55)	15,600	△ 100	99	505	1.80	488	476	103
沖 縄 (56)	643	42	107	322	1.80	314	305	103
第一期稲 (57)	445	△ 7	98	366	1.80	360	343	105
第二期稲 (58)	198	49	133	...	1.80	...	182	...

- 注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈面積を含めた水稻全体の作付面積である。
- 2 10 a 当たり予想収量（①）及び予想収穫量（主食用）（⑦）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 10 a 当たり予想収量（③）、10 a 当たり平年収量（④）及び作況指数（⑤）については、都道府県ごとに、過去5か年農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 主食用作付面積とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
- 5 予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 6 本表における平年比較の表示区分は、「多い（良）」が対平年比106%以上、「やや多い（やや良）」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない（やや不良）」が98～95%、「少ない（不良）」が94%以下に相当する。

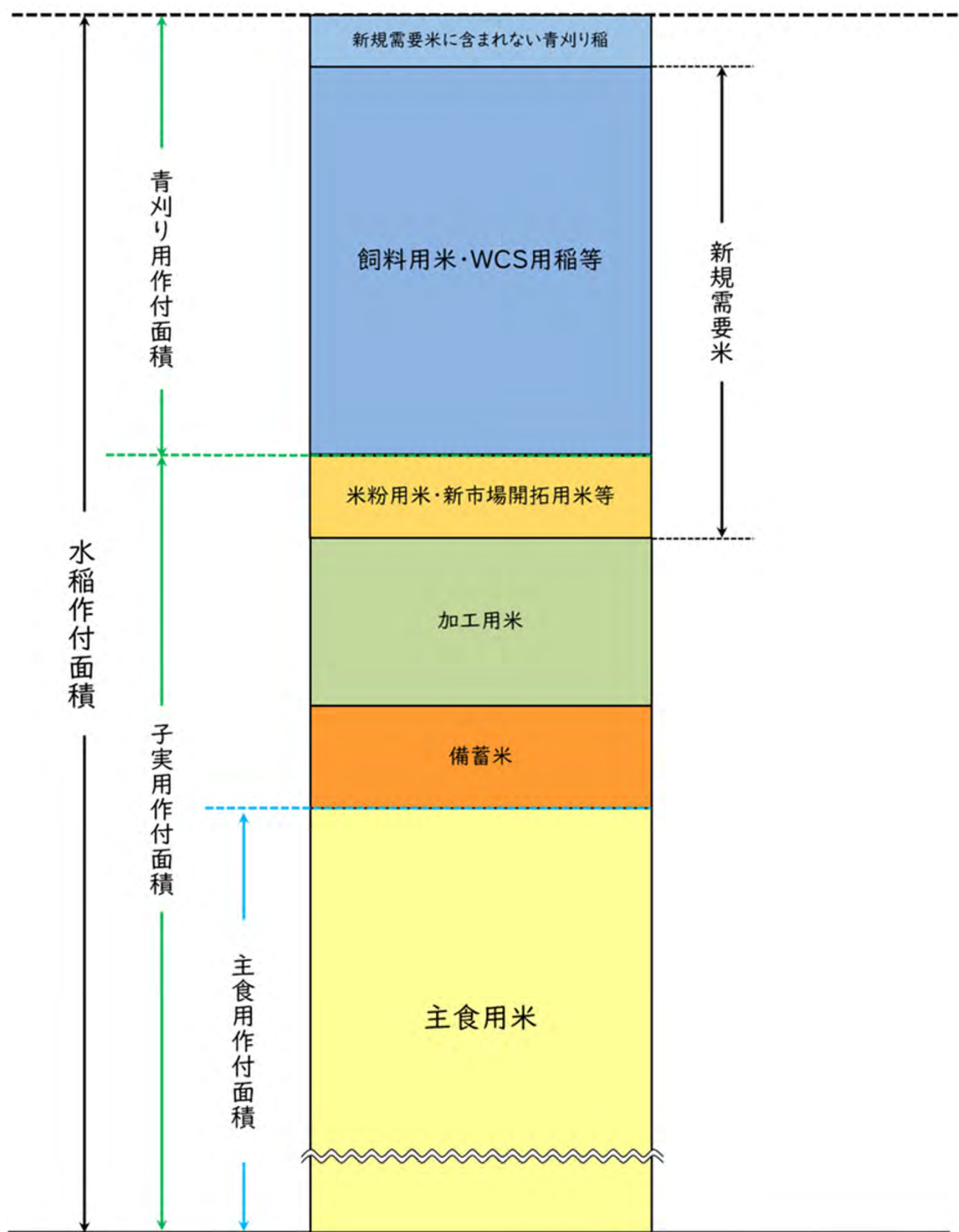
全 国 ・ 都道府県	主食用作付面積 ⑥	予想収穫量（主食用） ⑦＝①×⑥	作柄概況（平年比較）			
			穂数の多少	1 穂 当 た り も み 数 多	全 も み 数 少 の 多 少	登熟の良否
全 国 (1)	1, 259, 000	6, 833, 000	…	…	…	…
北 海 道 (2)	83, 700	490, 500	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み
青 森 (3)	37, 200	231, 800	やや少ない	平年並み	やや少ない	良
岩 手 (4)	43, 100	245, 700	平年並み	やや多い	やや多い	やや良
宮 城 (5)	58, 400	341, 100	やや多い	やや多い	多 い	平年並み
秋 田 (6)	72, 200	420, 900	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
山 形 (7)	52, 400	305, 500	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
福 島 (8)	56, 500	322, 600	やや多い	やや多い	やや多い	平年並み
茨 城 (9)	59, 900	325, 900	やや少ない	やや多い	やや多い	やや良
栃 木 (10)	49, 000	266, 100	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み
群 馬 (11)	12, 800	65, 200	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
埼 玉 (12)	28, 400	139, 200	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
千 葉 (13)	48, 300	274, 800	やや多い	やや多い	やや多い	やや良
東 京 (14)	107	448	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
神 奈 川 (15)	2, 840	14, 000	平年並み	多 い	多 い	不 良
新 潟 (16)	101, 400	544, 500	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
富 山 (17)	31, 200	168, 500	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良
石 川 (18)	21, 200	111, 100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
福 井 (19)	21, 900	116, 300	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
山 梨 (20)	4, 590	24, 700	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良
長 野 (21)	29, 000	179, 800	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
岐 阜 (22)	19, 600	94, 900	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
静 岡 (23)	14, 400	73, 400	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
愛 知 (24)	25, 000	124, 800	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
三 重 (25)	24, 500	119, 100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み
滋 賀 (26)	27, 400	141, 700	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良
京 都 (27)	13, 000	67, 900	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
大 阪 (28)	4, 290	21, 900	少ない	多 い	平年並み	やや良
兵 庫 (29)	32, 200	159, 700	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
奈 良 (30)	7, 960	41, 800	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
和 歌 山 (31)	5, 680	28, 700	少ない	やや多い	平年並み	やや良
鳥 取 (32)	11, 600	57, 900	少ない	やや多い	やや少ない	やや良
島 根 (33)	15, 700	79, 800	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
岡 山 (34)	27, 200	143, 300	少ない	多 い	平年並み	やや良
広 島 (35)	20, 100	108, 300	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
山 口 (36)	15, 800	81, 700	やや少ない	多 い	やや多い	平年並み
徳 島 (37)	9, 790	46, 000	…	…	…	…
早期栽培 (38)	…	…	少ない	やや多い	少ない	やや良
普通栽培 (39)	…	…	やや少ない	平年並み	平年並み	やや良
香 川 (40)	9, 770	48, 100	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み
愛 媛 (41)	12, 700	64, 600	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良
高 知 (42)	10, 100	46, 500	…	…	…	…
早期栽培 (43)	…	…	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
普通栽培 (44)	…	…	少ない	多 い	やや少ない	平年並み
福 岡 (45)	32, 200	154, 900	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良
佐 賀 (46)	22, 000	110, 900	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
長 崎 (47)	9, 360	45, 300	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良
熊 本 (48)	28, 800	152, 900	やや多い	やや多い	多 い	やや不良
大 分 (49)	17, 800	91, 000	やや少ない	多 い	やや多い	やや不良
宮 崎 (50)	12, 400	60, 800	…	…	…	…
早期栽培 (51)	…	…	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
普通栽培 (52)	…	…	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み
鹿 児 島 (53)	15, 600	76, 800	…	…	…	…
早期栽培 (54)	…	…	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良
普通栽培 (55)	…	…	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良
沖 縄 (56)	557	1, 790	…	…	…	…
第一期稲 (57)	…	…	やや多い	やや多い	やや多い	やや良
第二期稲 (58)	…	…	…	…	…	…

7 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、作期別の備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

8 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県における県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を作期別に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

9 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量（主食用）の算出は、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量の加重平均を用いた。

水稻作付面積の概念図



令和6年産の水田における作付状況 (令和6年9月15日時点)

- ・ 全国の主食用米の作付面積は、都道府県ごとの増減があるものの、前年実績（124.2万ha）から1.7万ha増加し、125.9万haとなった。
- ・ 戦略作物等の作付面積は、飼料用米及び米粉用米が減少し、新市場開拓用米、加工用米及びWCS用稲が増加するとともに、麦、大豆及び飼料作物等については、1.8万haの畑地化により、水田における作付面積（基幹作）が減少した。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】											(万ha)
	主食用米	戦略作物等									備蓄米
		加工用米	新規需要米				麦	大 豆	飼料作物 そば なたね	戦略作物等 合計面積	
			新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵 粗飼料用稲〕					
H30年産	138.6	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R 元 年 産	137.9	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R 2 年 産	136.6	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R 3 年 産	130.3	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R 4 年 産	125.1	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6
R 5 年 産	124.2	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1	3.5
R 6 年 産	125.9	5.0	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	7.4	48.3	3.0
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	0.3	0.2	0.8	1.3 (1.8)※	—

注1：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲）は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注3：麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

※R6年産畑地化面積の戦略作物等合計面積欄の1.8万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

令和6年産の水田における都道府県別の作付状況 (令和6年9月15日時点)

都道府県	主食用米			戦略作物等											備蓄米	【参考】 R6年 畑地化面積		
				加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば	なたね				
	前年産 (5年産) ②	増減 ①-②	新市場 開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵 粗飼料用稲)	その他										
全国計	125.9万	124.2万	1.7万	50,197	11,246	6,330	98,666	56,479	69	103,099	84,416	49,471	23,984	575	30,014	17,653	全国計	
北海道	83,700	82,200	1,500	6,800	2,515	153	5,303	2,484	-	31,782	16,498	8,944	5,430	371	1,814	11,113	北海道	
青森	37,200	33,800	3,400	680	499	9	5,351	933	-	506	4,814	2,768	967	5	4,040	1,081	青森	
岩手	43,100	42,800	300	1,277	435	17	4,802	2,532	1	3,494	4,052	6,134	569	12	644	604	岩手	
宮城	58,400	57,200	1,200	945	1,155	86	7,228	2,974	1	2,231	9,388	4,840	402	0	2,201	338	宮城	
秋田	72,200	69,900	2,300	8,419	544	275	2,453	1,367	2	142	8,475	1,765	3,484	4	2,682	344	秋田	
山形	52,400	52,400	0	4,309	476	103	4,663	1,366	3	89	4,497	2,257	4,128	1	3,422	1,010	山形	
福島	56,500	53,100	3,400	429	178	15	6,967	1,098	0	376	875	1,552	1,395	89	5,558	228	福島	
茨城	59,900	57,800	2,100	1,291	1,089	95	10,347	638	1	3,866	671	439	389	0	125	335	茨城	
栃木	49,000	47,200	1,800	1,912	60	909	11,556	2,329	3	7,488	353	2,730	1,137	6	1,062	330	栃木	
群馬	12,800	12,400	400	1,355	2	213	1,018	645	-	2,208	129	175	24	1	-	76	群馬	
埼玉	28,400	27,500	900	144	58	918	2,073	120	-	2,228	364	141	88	2	40	9	埼玉	
千葉	48,300	45,800	2,500	2,072	49	119	6,642	1,307	-	469	233	275	4	-	123	24	千葉	
東京	107	111	▲4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東京	
神奈川	2,840	2,850	▲10	-	-	0	12	3	-	3	7	3	1	-	-	3	神奈川	
新潟	101,400	100,600	800	6,760	1,830	1,389	2,866	687	0	215	3,911	295	822	-	4,658	130	新潟	
富山	31,200	31,200	0	1,143	358	320	1,914	538	-	3,258	3,668	334	256	19	1,848	66	富山	
石川	21,200	20,800	400	529	89	236	507	124	-	1,214	983	24	149	-	164	2	石川	
福井	21,900	21,500	400	493	253	125	1,531	166	6	5,156	130	44	523	-	700	10	福井	
山梨	4,590	4,660	▲70	68	-	21	18	23	-	67	96	21	111	0	-	-	山梨	
長野	29,000	29,300	▲300	756	297	31	306	285	-	2,487	634	549	1,998	0	216	227	長野	
岐阜	19,600	19,700	▲100	1,139	140	72	2,777	320	-	3,718	298	570	248	-	104	16	岐阜	
静岡	14,400	15,000	▲600	99	1	8	774	332	-	258	30	40	29	-	4	7	静岡	
愛知	25,000	24,700	300	650	43	303	1,309	183	-	5,722	84	135	5	10	143	-	愛知	
三重	24,500	24,900	▲400	176	128	78	1,951	304	-	7,084	247	152	11	8	-	5	三重	
滋賀	27,400	27,000	400	505	250	50	1,507	334	-	8,505	537	189	120	12	231	7	滋賀	
京都	13,000	13,200	▲200	530	21	12	119	178	-	275	264	43	140	-	-	37	京都	
大阪	4,290	4,430	▲140	0	-	1	6	6	-	0	5	1	-	-	-	14	大阪	
兵庫	32,200	32,500	▲300	667	215	40	690	1,040	6	1,954	1,620	730	108	8	-	96	兵庫	
奈良	7,960	8,200	▲240	11	-	31	32	41	-	72	23	5	2	0	-	9	奈良	
和歌山	5,680	5,780	▲100	-	-	1	2	4	-	9	8	2	2	-	-	1	和歌山	
鳥取	11,600	11,700	▲100	17	33	1	717	425	0	81	569	757	321	0	77	187	鳥取	
島根	15,700	15,900	▲200	200	2	7	735	835	0	252	566	420	284	6	25	63	島根	
岡山	27,200	26,900	300	281	196	81	1,143	533	-	1,168	1,003	835	105	0	34	40	岡山	
広島	20,100	20,500	▲400	358	55	93	355	740	0	308	233	907	262	0	11	127	広島	
山口	15,800	16,000	▲200	972	101	16	999	441	0	817	654	846	49	0	-	1	山口	
徳島	9,790	9,480	310	19	38	12	621	254	-	52	4	86	2	-	62	-	徳島	
香川	9,770	10,100	▲330	53	34	8	190	343	-	1,184	33	245	9	1	-	-	香川	
愛媛	12,700	12,800	▲100	45	-	5	326	255	-	421	319	171	4	-	-	15	愛媛	
高知	10,100	10,200	▲100	83	-	23	1,047	334	-	3	51	127	0	-	2	75	高知	
福岡	32,200	32,300	▲100	214	13	232	2,160	2,307	-	1,190	7,691	405	34	-	7	309	福岡	
佐賀	22,000	21,700	300	376	10	16	709	2,280	-	1,107	6,455	357	15	1	-	86	佐賀	
長崎	9,360	10,000	▲640	5	5	5	122	1,597	3	86	255	1,690	37	1	-	135	長崎	
熊本	28,800	28,900	▲100	667	39	160	1,392	9,401	21	776	2,110	1,803	169	13	-	341	熊本	
大分	17,800	18,100	▲300	159	5	8	1,793	2,799	-	656	1,100	905	86	2	18	53	大分	
宮崎	12,400	12,700	▲300	2,108	33	21	886	7,375	20	17	204	3,018	26	0	-	65	宮崎	
鹿児島	15,600	15,800	▲200	1,443	1	10	745	4,158	1	102	277	1,720	41	2	-	33	鹿児島	
沖縄	557	544	13	40	-	2	1	43	-	-	-	23	-	-	-	-	沖縄	

※畑地化事業による畑地化した面積は含まない。

注1：主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

注2：加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

注3：麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

注4：R6年産畑地化面積は、R6年度に畑地化促進事業で採択された面積。

【酒造好適米の全体需給の推計】

農林水産省が本年7月に行った「酒造好適米等の需要量調査」の結果をまとめました。より詳細な調査結果の内容は、下記URLよりご参照ください。

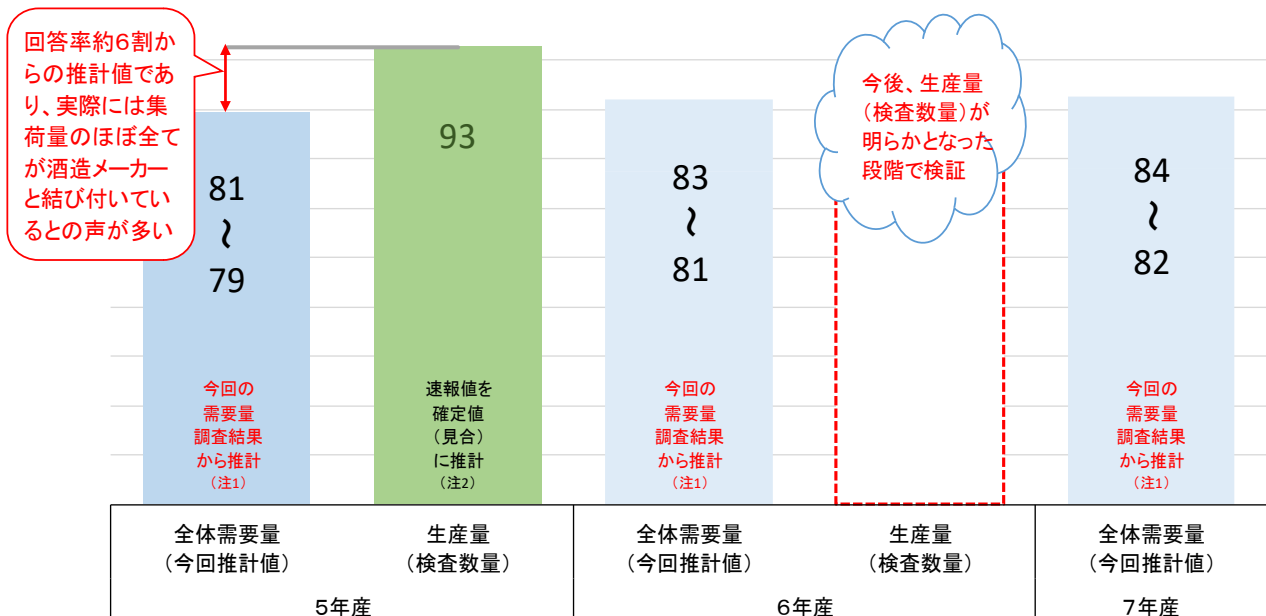
また、令和6年9月30日に「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催したところであり、その概要については、同URLに追って掲載します。

【 https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html 】

- ・ 今回の需要量調査によると、令和5年産の全体需要量（推計値）は79～81千トン程度、**令和6年産の全体需要量（推計値）は81～83千トン程度、令和7年産の全体需要量（推計値）は82～84千トン程度**と見込まれます。
- ・ 令和5年産については、生産量（推計値）が全体需要量（推計値）を12～14千トン程度上回っているものの、**生産及び実需の関係者からは、実際には集荷量のほぼ全てが酒造メーカーと結び付いており、過剰感はないとの声が多く**、その差は全体需要量を聞き取り結果（回答率約6割）から推計していることによるものと考えられます。
- ・ **令和7年産**については、各産地において、今後、全体需要量変動する場合があることに留意するとともに、**令和6年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要**です。
- ・ また、**複数年契約の取組の拡大や日本酒の輸出拡大といった新たな需要動向を踏まえた生産に取り組むことも重要**です。
- ・ なお、令和6年産の生産量については、酒造好適米の検査数量が概ね明らかとなる来年2月に検証し、3月号のマンスリーレポートでお知らせします。

（単位：千トン）

酒造好適米（醸造用玄米）の全体需給の状況



注1： 各年産の全体需要量（今回推計値）は、今回の需要量調査の数量ベース回答率が、令和4年産酒造好適米の全体需要量（73～74千トン）と今回調査の令和4年産の需要量（約60千トン）から約81～83%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2： 生産量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和5年産は、令和6年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

令和6年度酒造好適米等の需要量調査結果の概要

- ・ 昨年に引き続き、酒造好適米の需要量を把握するため、日本酒の酒造メーカーを対象として本年7月に需要量調査を実施しました。

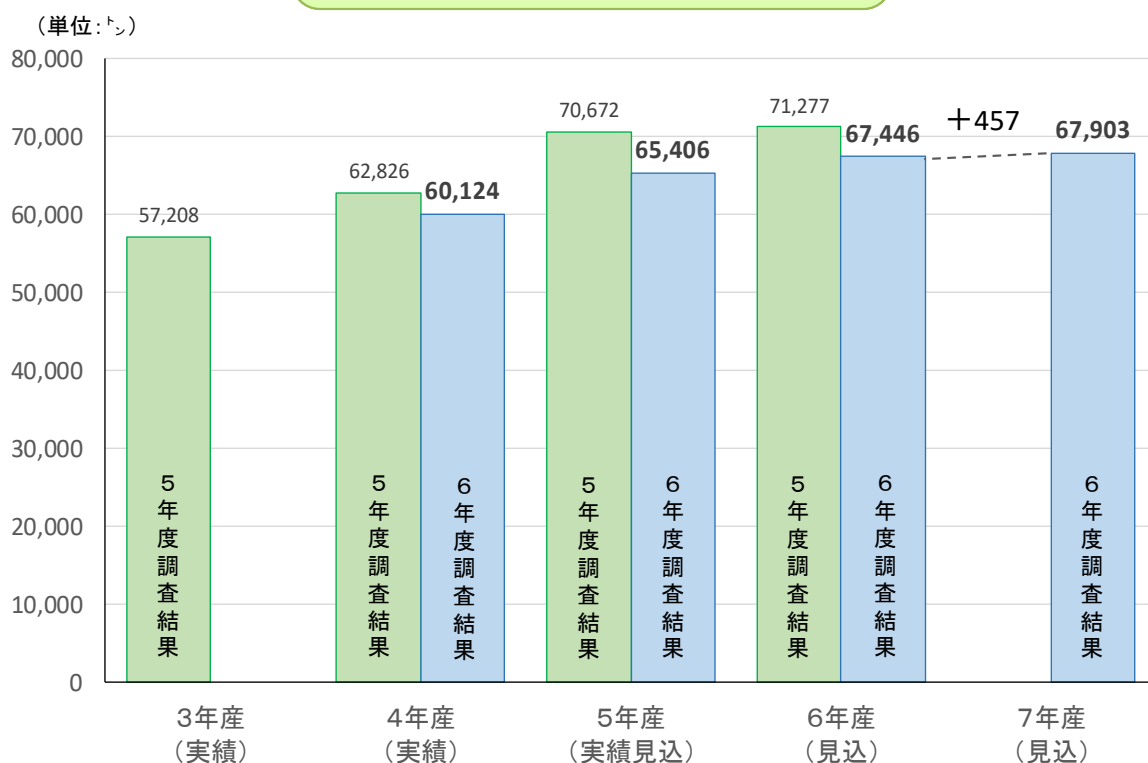
調査の概要

	令和5年度	令和6年度
調査期間	令和5年7月	令和6年7月
調査対象メーカー数	1,248社	1,205社
回答酒造メーカー数	765社	711社
回答率(数量ベース)	85～86%	81～83%

酒造好適米の需要量調査結果

- ・ 今年度の酒造好適米等の需要量調査で回答のあった酒造メーカーの令和7年産酒造好適米の需要見込みは、合計で68千トと令和6年産に比べてやや増加するという結果になりました。
- ・ 令和6年産の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和5年産に比べて+1%でしたが、今年度の需要量調査においても、令和5年産に比べて+3%となっています。
- ・ 令和7年産の生産に当たっては、各産地において、令和6年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、生産者と実需者が連携し、令和7年産の作付計画に反映する必要があります。

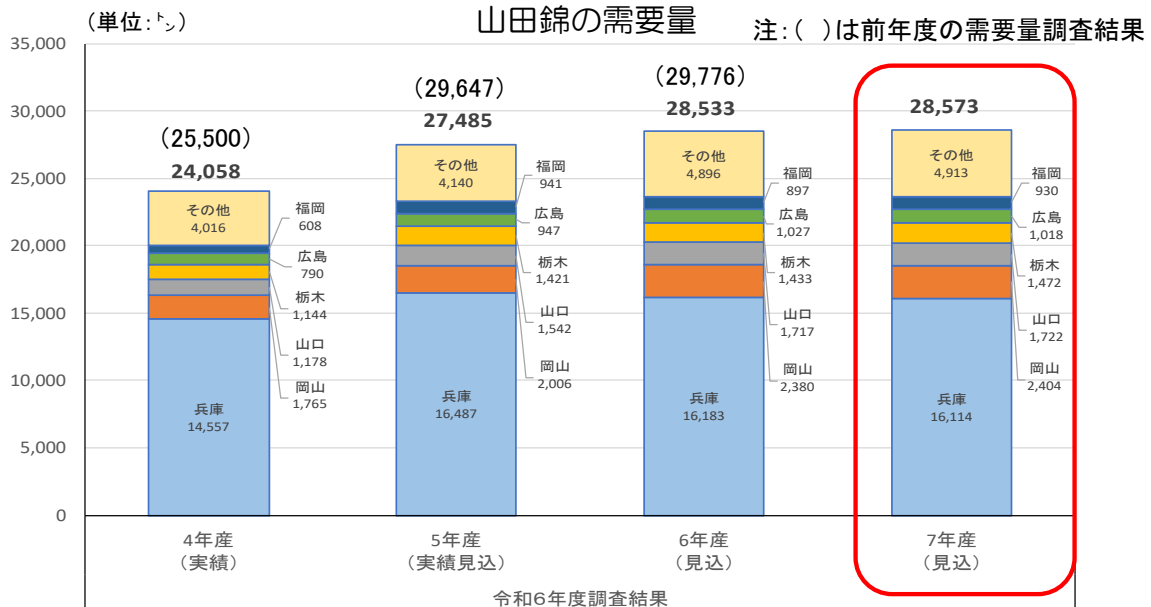
酒造好適米の需要量調査結果



主な酒造好適米の需要量(酒造メーカーからの回答分)

山田錦

- 令和7年産の山田錦の需要量は、令和6年産に比べて±0%と同程度となっています。
- 令和6年産の山田錦の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和5年産に比べて±0%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和5年産に比べて+4%となっています。

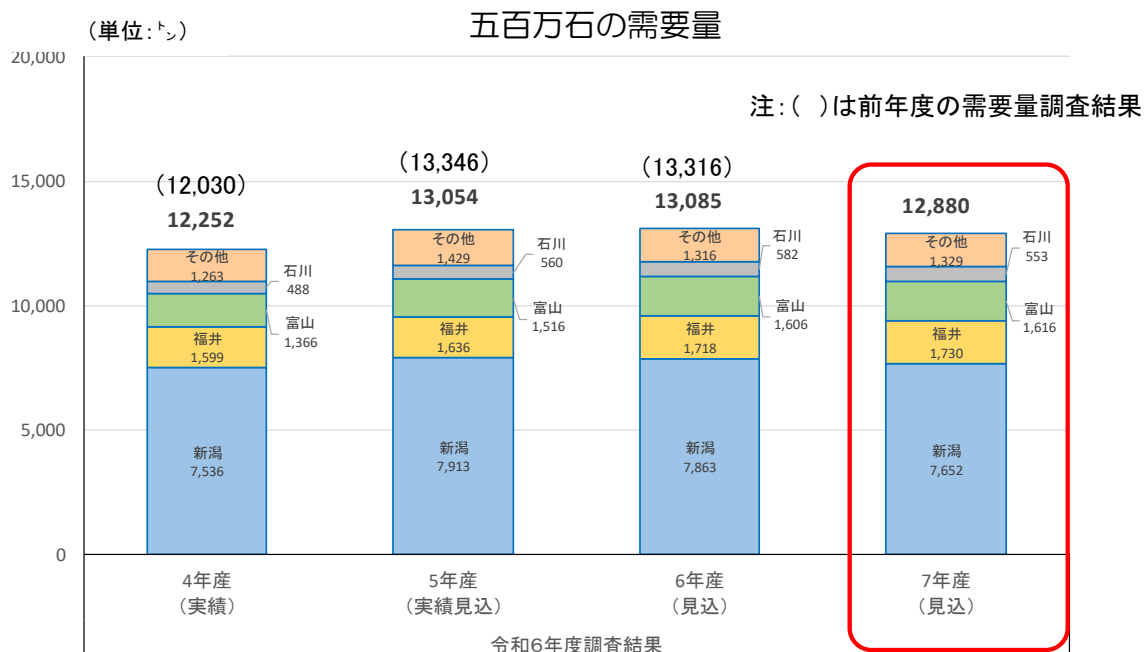


【参考】山田錦の生産量(検査数量)

4年産 28,168 5年産(推計値) 34,794

五百万石

- 令和7年産の五百万石の需要量は、令和6年産に比べて▲2%減少しています。
- 令和6年産の五百万石の需要量は、昨年度及び今年度のいずれの需要量調査においても、令和5年産に比べて±0%となっています。



【参考】五百万石の生産量(検査数量)

4年産 14,970 5年産(推計値) 16,940

日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた酒造好適米を多く使用する特定名称酒についても減少に転じたところです。
- 令和6年1～7月においては、特定名称酒が対前年同期比▲1%、一般酒が対前年同期比▲4%と減少しており、日本酒全体としても、対前年同期比▲3%と減少しています。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	平成 10年	15年	20年	25年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年 (1～7月)	対前年同期比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	495	467	419	404	404	390	196	97%
特定名称酒	291	221	174	164	171	165	142	138	145	146	74	99%
吟醸酒	34	30	20	21	23	22	20	19	20	19	9	102%
純米吟醸酒	25	26	24	29	45	45	40	42	46	48	25	100%
純米酒	62	54	57	58	64	62	55	53	55	55	29	101%
本醸造酒	169	111	73	56	38	35	27	24	25	24	11	94%
一般酒	842	650	485	416	324	302	276	266	259	245	122	96%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和6年は概算値。石川県のデータが令和5年12月以降一部未集計となっている。

注1：日本酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。

2：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しています。
- 令和5年は、アメリカ、中国等への輸出の減少により、輸出量は対前年比▲19%と減少しましたが、令和6年1～7月においては、対前年同期比＋2%と増加しています。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	平成 10年	15年	20年	25年	30年	令和 元年	2年	3年	4年	5年	6年 (1～7月)	対前年同期比
日本酒輸出量	8	8	12	16	26	25	22	32	36	29	17.5	102%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	6	6	5	9	9	7	4.8	127%
中華人民共和国	0	0	0	1	4	5	5	7	7	6	2.6	68%
香港	1	1	1	2	2	2	3	3	3	2	1.1	79%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	3	3	3	1.6	101%
大韓民国	0	0	2	4	5	3	2	2	4	4	3.0	117%
その他	2	2	3	4	6	6	5	8	10	7	4.4	109%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。

URL：https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

1 米の民間在庫情報

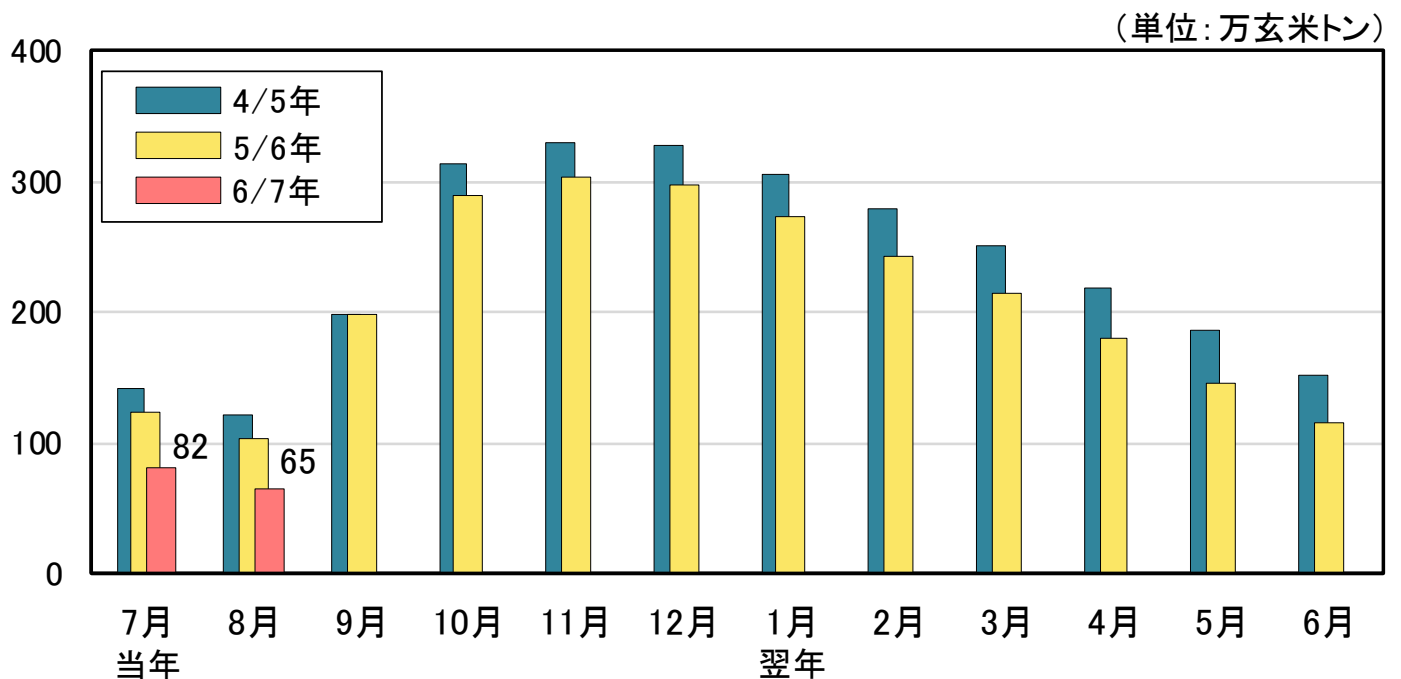
1 民間在庫の推移

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

民間在庫の累年データについては、農林水産省ホームページの「農産」の分野別分類「米（稲）・麦・大豆」、品目別分類「米の相対取引価格・数量、契約・販売状況、民間在庫の推移等」から御覧いただけます。
【 <https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/aitaikakaku.html> 】

- 令和6年8月末の出荷及び販売段階における民間在庫は、対前年同月差▲40万トンの65万トンとなっている。また、流通段階別でみると出荷段階で対前年同月差▲34万トンの44万トン、販売段階で▲5万トンの21万トンとなっている。

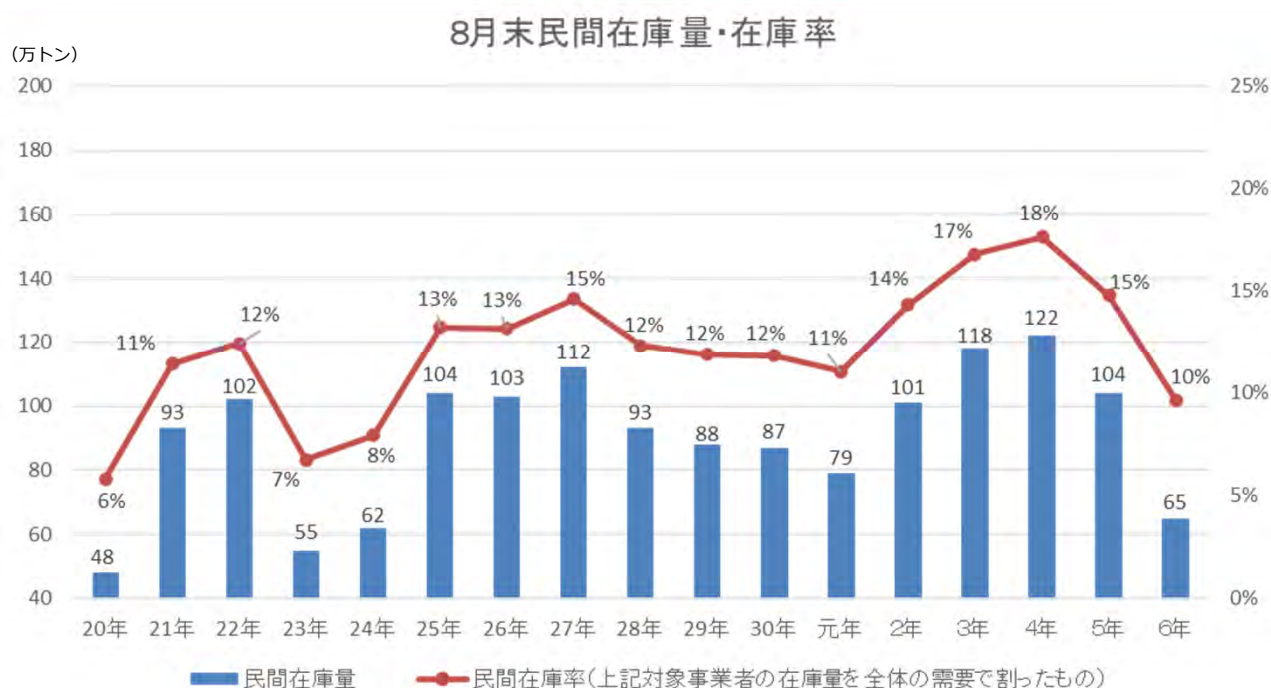
※ 産地別の在庫量は、「在庫-5」以降を参照。



【令和6年8月末民間在庫量のポイント】

- 毎月公表している民間在庫量は、①500トン以上の集荷業者、②4,000トン以上の卸売業者が対象。およそ民間の流通在庫全体の7割強をカバー(下記参考参照)。
- 令和6年8月末の民間在庫量は、65万トン(在庫率10%)で前月より▲17万トンの減。前月(7月)の対前月差(▲32万トン)より減少幅が小さいが、これは8月に入り、新米が集荷され、在庫として積みあがってき始めたことによるもの。
- 在庫率※としては、令和6年8月末は10%であり、前月と同様に、平成23年8月末(7%)、平成24年8月末(8%)などよりは高い水準。

※ 在庫率は上記対象事業者の在庫量を全体の需要で割ったもの。



※22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

(参考) 毎月公表している民間在庫量の調査対象の範囲

	出荷段階	販売段階		生産段階
	年間取扱 500トン以上	年間取扱 4,000トン以上	年間取扱 500～ 4,000トン	
うるち米	【毎月調査ベース】 6月末在庫 115万トン ↓ 8月末在庫 65万トン			
もち米				

【米の基本指針ベース】
 156万トン
 (※6月末のみ調査)

【全国段階の民間在庫の推移(うるち米)】

【出荷＋販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23
元年産米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146
1年古米(30年産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19
2年産米	0	12	124	266	297	304	291	269	245	214	185	162
1年古米(元年産)	112	84	61	51	40	31	23	17	13	11	9	7
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1
3年産米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
1年古米(2年産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18
4年産米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
1年古米(3年産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38
5年産米	1	14	131	232	254	260	245	221	195	165	133	105
1年古米(4年産)	106	78	56	46	36	27	21	15	13	10	7	5
6/7年	82	65										
対前年差	▲40	▲40										
6年産米	1	13										
1年古米(5年産)	74	46										

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 期間については、6/7年であれば、令和6年7月～6年6月である。

5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

【出荷段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	76	63	120	236	252	249	235	215	183	150	127	101
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲5	▲3	▲4	▲7	▲4	▲2
30年産米	1	14	90	219	240	240	228	211	180	148	125	100
1年古米(29年産)	74	48	30	15	11	7	5	4	3	2	2	1
元/2年	74	55	128	238	257	261	244	219	184	157	138	109
対前年差	▲2	▲8	+8	+2	+5	+13	+9	+4	+1	+7	+11	+8
元年産米	0	7	99	222	246	254	238	214	181	155	136	108
1年古米(30年産)	73	47	28	14	9	6	4	3	2	2	1	1
2/3年	84	70	151	265	285	284	269	245	217	186	162	132
対前年差	+10	+15	+23	+27	+27	+22	+26	+27	+33	+29	+24	+23
2年産米	0	9	108	236	263	268	258	237	211	182	158	129
1年古米(元年産)	82	60	42	28	20	14	10	7	5	4	3	3
3/4年	106	90	178	277	298	296	279	256	226	196	169	139
対前年差	+22	+20	+27	+12	+13	+12	+10	+11	+9	+10	+7	+7
3年産米	0	8	115	227	255	261	249	231	206	179	154	126
1年古米(2年産)	103	80	61	47	40	33	28	24	19	16	14	13
4/5年	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
対前年差	+10	+8	▲12	▲15	▲21	▲20	▲20	▲20	▲22	▲20	▲20	▲18
4年産米	0	9	97	208	231	239	228	210	185	160	136	110
1年古米(3年産)	103	78	58	44	36	29	24	19	14	11	9	7
5/6年	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
対前年差	▲21	▲20	▲5	▲27	▲28	▲31	▲31	▲34	▲33	▲36	▲38	▲37
5年産米	0	10	113	200	220	225	212	190	163	134	108	81
1年古米(4年産)	86	61	42	30	24	17	13	10	6	4	3	2
6/7年	58	44										
対前年差	▲38	▲34										
6年産米	0	9										
1年古米(5年産)	55	33										

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
30/元年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	30
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	▲1
30年産米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	27
1年古米(29年産)	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	3
元/2年	26	24	33	56	58	57	51	47	49	46	40	45
対前年差	±0	▲1	+2	+3	+4	+4	+4	+4	+5	+4	+5	+14
元年産米	0	3	16	32	37	40	38	36	40	38	33	38
1年古米(30年産)	22	18	15	20	15	10	8	6	5	4	3	2
2/3年	35	31	39	59	60	58	52	48	48	44	37	41
対前年差	+10	+7	+6	+3	+2	+1	+1	+1	▲2	▲2	▲3	▲4
2年産米	0	3	15	30	34	36	33	32	34	33	27	33
1年古米(元年産)	30	24	19	23	20	16	13	10	9	7	6	4
3/4年	32	28	36	53	53	53	46	43	44	42	35	32
対前年差	▲3	▲2	▲3	▲5	▲7	▲5	▲6	▲4	▲3	▲2	▲2	▲8
3年産米	0	3	14	26	30	32	29	28	30	30	25	24
1年古米(2年産)	25	20	16	20	16	14	11	9	9	7	5	4
4/5年	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
対前年差	▲6	▲4	▲3	▲3	▲1	▲1	+1	+1	+2	+2	+1	±0
4年産米	0	3	15	28	32	34	31	31	32	31	26	24
1年古米(3年産)	20	17	13	15	13	11	8	7	8	7	5	4
5/6年	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
対前年差	+1	+2	+5	+3	+2	±0	±0	▲3	▲3	▲3	▲3	▲2
5年産米	0	4	18	32	34	35	32	31	32	31	26	24
1年古米(4年産)	20	17	14	16	12	10	8	6	6	6	4	3
6/7年	25	21										
対前年差	▲3	▲5										
6年産米	0	4										
1年古米(5年産)	19	13										

※本表の注意点は前頁の出荷+販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（速報）

	5年 7月 ① (千玄米トン)	5年 8月 ② (千玄米トン)	6年 7月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=③/① (%)	6年 8月 ⑥ (千玄米トン)	対前月差 ⑦=⑥-③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑧=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑨=⑥/② (%)
北海道	126.6	91.0	80.4	▲ 46.2	▲ 36.5%	49.2	▲ 31.2	▲ 41.8	▲ 46.0%
青森	62.5	46.6	38.2	▲ 24.3	▲ 38.9%	23.5	▲ 14.7	▲ 23.1	▲ 49.5%
岩手	62.0	46.2	47.0	▲ 15.0	▲ 24.2%	28.7	▲ 18.3	▲ 17.5	▲ 37.9%
宮城	85.5	69.7	56.1	▲ 29.4	▲ 34.4%	37.9	▲ 18.2	▲ 31.7	▲ 45.5%
秋田	73.3	48.8	44.0	▲ 29.2	▲ 39.9%	21.8	▲ 22.3	▲ 27.0	▲ 55.4%
山形	79.4	61.0	57.2	▲ 22.1	▲ 27.9%	39.3	▲ 18.0	▲ 21.8	▲ 35.7%
福島	73.5	55.9	58.9	▲ 14.6	▲ 19.9%	40.9	▲ 18.1	▲ 15.0	▲ 26.9%
茨城	46.3	54.9	27.0	▲ 19.2	▲ 41.6%	36.7	9.6	▲ 18.2	▲ 33.2%
栃木	73.1	58.2	55.6	▲ 17.4	▲ 23.9%	36.8	▲ 18.8	▲ 21.3	▲ 36.7%
群馬	11.4	9.0	6.6	▲ 4.8	▲ 41.8%	4.6	▲ 2.0	▲ 4.4	▲ 48.9%
埼玉	16.4	13.2	7.2	▲ 9.2	▲ 56.2%	5.3	▲ 1.9	▲ 7.9	▲ 60.1%
千葉	13.4	51.7	8.4	▲ 5.0	▲ 37.3%	52.5	44.1	+ 0.8	+ 1.6%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	0.0	+ 0.0	-
神奈川	0.7	0.5	0.7	▲ 0.1	▲ 9.7%	0.4	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 13.2%
山梨	2.2	1.6	1.9	▲ 0.3	▲ 13.3%	1.5	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 5.2%
長野	32.3	27.0	25.3	▲ 7.1	▲ 21.9%	18.2	▲ 7.1	▲ 8.8	▲ 32.6%
静岡	4.2	6.3	3.1	▲ 1.1	▲ 25.3%	5.0	1.9	▲ 1.3	▲ 20.9%
新潟	88.0	65.0	68.8	▲ 19.2	▲ 21.8%	42.4	▲ 26.4	▲ 22.5	▲ 34.7%
富山	33.9	28.6	22.9	▲ 11.0	▲ 32.5%	17.1	▲ 5.8	▲ 11.4	▲ 40.0%
石川	25.3	25.3	18.2	▲ 7.1	▲ 28.1%	19.3	1.1	▲ 6.0	▲ 23.8%
福井	16.2	20.4	10.3	▲ 5.9	▲ 36.6%	13.2	2.9	▲ 7.2	▲ 35.3%
岐阜	17.0	15.4	8.0	▲ 8.9	▲ 52.7%	6.9	▲ 1.1	▲ 8.5	▲ 55.1%
愛知	12.5	11.3	8.8	▲ 3.6	▲ 29.0%	8.3	▲ 0.6	▲ 3.0	▲ 26.9%
三重	8.0	15.8	5.3	▲ 2.7	▲ 34.1%	11.9	6.6	▲ 3.9	▲ 24.9%
滋賀	19.7	16.8	9.5	▲ 10.2	▲ 51.9%	8.5	▲ 1.0	▲ 8.3	▲ 49.5%
京都	4.0	2.4	1.9	▲ 2.1	▲ 53.1%	1.1	▲ 0.8	▲ 1.3	▲ 54.3%
大阪	0.8	0.6	0.3	▲ 0.5	▲ 59.5%	0.2	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 75.9%
兵庫	18.2	14.2	15.9	▲ 2.3	▲ 12.7%	11.9	▲ 4.0	▲ 2.4	▲ 16.6%
奈良	5.8	4.7	2.7	▲ 3.1	▲ 53.1%	1.8	▲ 1.0	▲ 3.0	▲ 63.1%
和歌山	1.3	1.1	0.5	▲ 0.8	▲ 60.1%	0.3	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 68.9%
鳥取	9.6	6.7	6.5	▲ 3.1	▲ 32.7%	3.8	▲ 2.6	▲ 2.9	▲ 43.1%
島根	11.6	9.1	5.9	▲ 5.6	▲ 48.7%	3.9	▲ 2.0	▲ 5.2	▲ 57.2%
岡山	18.2	13.1	14.0	▲ 4.2	▲ 22.9%	9.5	▲ 4.6	▲ 3.6	▲ 27.6%
広島	14.2	10.2	8.2	▲ 6.0	▲ 42.3%	5.1	▲ 3.1	▲ 5.1	▲ 49.7%
山口	18.0	14.5	8.4	▲ 9.6	▲ 53.3%	5.6	▲ 2.8	▲ 8.9	▲ 61.2%
徳島	1.8	7.8	0.8	▲ 1.0	▲ 53.5%	5.1	4.2	▲ 2.7	▲ 34.8%
香川	6.3	4.1	2.7	▲ 3.5	▲ 56.3%	1.6	▲ 1.2	▲ 2.6	▲ 62.3%
愛媛	7.2	7.4	3.8	▲ 3.4	▲ 47.5%	3.3	▲ 0.5	▲ 4.1	▲ 55.8%
高知	3.4	9.6	2.5	▲ 0.8	▲ 25.0%	6.8	4.3	▲ 2.7	▲ 28.7%
福岡	25.7	17.2	15.4	▲ 10.3	▲ 40.1%	9.2	▲ 6.2	▲ 8.0	▲ 46.3%
佐賀	15.5	12.2	10.2	▲ 5.4	▲ 34.6%	6.5	▲ 3.7	▲ 5.7	▲ 47.0%
長崎	3.4	3.0	2.4	▲ 1.0	▲ 29.8%	1.9	▲ 0.5	▲ 1.1	▲ 36.1%
熊本	15.3	12.5	10.2	▲ 5.1	▲ 33.2%	7.3	▲ 2.9	▲ 5.2	▲ 41.7%
大分	7.5	6.0	4.1	▲ 3.4	▲ 45.2%	3.0	▲ 1.1	▲ 3.0	▲ 49.5%
宮崎	8.3	7.4	4.8	▲ 3.6	▲ 42.6%	3.9	▲ 0.9	▲ 3.5	▲ 47.4%
鹿児島	12.6	12.0	5.0	▲ 7.5	▲ 60.1%	4.0	▲ 1.0	▲ 8.0	▲ 66.9%
沖縄	0.6	0.4	0.5	▲ 0.1	▲ 22.9%	0.2	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 44.0%
全国	123万ト	104万ト	82万ト	▲ 40万ト	▲ 32.9%	65万ト	▲ 17万ト	▲ 40万ト	▲ 37.9%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。